



つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和4(2022)年 3月23日 発行
発行元
秋田市在宅医療・介護連携センター
TEL 018-827-3636
E-mail renkei-center@acma.or.jp

令和3年度 第2回 秋田市在宅医療・介護連携セミナーを開催しました。

令和4年1月22日に、本年度2回目の秋田市在宅医療・介護連携セミナーをオンライン開催いたしました。同セミナーでは「医療・介護・消防（救急隊）が円滑に連携することを目指して～救急隊員から伝えたいこと～」と題して、秋田市消防本部 高齢化社会対策ワーキンググループから6名を講師にお招きし、ご講演とグループワーク進行支援をしていただきました。当日参加された医療・介護関係者等からもご好評をいただき、今後さらなる連携の輪の広がりにも大きな期待が寄せられています。

今回の「つながりVol.13」では、同セミナー内容のほか、講師を代表してご講演いただきました奥山和貴子氏のお話をご紹介します。



私が講義内容の一部を解説します！

講師 奥山 和貴子氏



救急要請する時のポイント

まずは深呼吸をして落ち着きましょう。
事前にできる対策をしておくことが大切です。

119番通報をする時、こんなことを聞かれます。(救急の場合)

- ① 大事ですか、救急ですか。
- ② 救急車を向かわせる場所の住所、建物名称。
- ③ 反応と呼吸はありますか。
- ④ 具合が悪い人の年齢と性別。
- ⑤ いつ頃からどんな症状ですか。
- ⑥ 普段かかっている病院と病歴。

色んなことをたくさん聞かれて困る…



高齢化社会対策WG・集合型研修担当

救急要請してからのポイント

病院へスムーズに搬送できるよう、救急隊への最大限の情報伝達と、可能な範囲の応急手当にご協力ください。

救急車が現場に到着するまでは、平均で、約7分!!!

救急隊が到着するまでに…

- ・ 必要があれば、応急手当の実施。
- ・ 施錠をしている時間帯であれば、玄関の解錠。
- ・ 患者さんがいる場所までの案内。(大きな建物の場合は特に重要！)
- ・ ゼマリーやお薬手帳の準備。

高齢化社会対策WG・集合型研修担当

救急隊員にはこんなことを聞かれます。

- ・ 名前、生年月日。
- ・ いつ頃から、どんな症状か。(救急要請に至った経緯)
- ・ かかりつけ病院と、既往、現病歴。
- ・ 希望する搬送先医療機関の有無。(事前の病院連絡の有無)
- ・ 普段の状態(意識や生活動作など)との違い。



高齢化社会対策WG・集合型研修担当

高齢化社会対策ワーキンググループとは…

高齢者をとりまく問題を解決していくために、高齢者福祉施設向け集合型研修の開催やリーフレット作成などを中心に活動している秋田市消防本部内のグループのひとつです。

119番通報では、救急車や消防車が少しでも早く現場に向かうために必要な情報を、指令員が優先度の高い順に聞いていきます。場所が分かった時点で出動を開始しますが、その間も電話での聞き取りは続きます。

左記はあくまでも一例です。一問一答を意識しましょう。わからないことは「わからない」と答えても大丈夫です。できるだけ傷病者の近くから電話してもらい、より細かい様子を伝えてもらえると大変助かります。

必要があれば、指令員から応急手当の方法を伝えます。また、傷病者の情報は、指令員を通して現場到着前の救急隊に伝えられます。

現場の救急隊は間違いや勘違いを防ぐために、通報時に伝えてもらったことでも、再度確認することがあります。希望する搬送先をうかがうことがありますが、傷病者の状態や病院側の状況によっては、希望に沿えないこともありますのでご了承ください。

傷病者の状態によっては、食事の摂取状況、服薬状況、症状がいつから出現したかなども確認します。聞き取りしたことなどを基に、医師に症状や様子を伝えます。

医師の指示のもと、救急救命士ができる医療処置があれば実施します。これらの一連の行動が、傷病者をより早く搬送することにつながります。



奥山 和貴子 氏

秋田市消防本部 土崎消防署 救急救命士
趣味：手芸、スノーボード
座右の銘：和を以て貴しとなす

セミナーで講師を務められたご感想をお聞かせください

この度のセミナーを終えて、「これは、今後もやっていけるな」と感じましたし、次はどのような工夫が必要かなどの思いに至りました。達成感もありましたし、受講者の方々の雰囲気もすごく良かったので、今後も続けてやっていく意欲や希望が湧いてきました。最近では、コロナ禍で研修会が思うようにできずにいましたが、この度、初めてオンラインでの研修を実践して、十分遜色なくできることもわかりました。その都度受講者の方々のニーズも変容していくと思いますので、随時、内容や手法を検討していきたいと考えています。

医療・介護関係者に伝えたいことや望むことはありますか

「119番通報時や到着した救急隊から何を聞かれるか不安だ」という声をよく聞きます。聞かれる内容を事前に把握しておくことで、通報に対する不安が軽減すると思いますし、少しでも慌てずに行動できるようになると思います。普段は元気な方でも、いつ具合が悪くなるかわかりません。もちろん若い人にも言えることですが、特に高齢者と関わる人が多い方には、日頃から予測できる範囲での備えをお願い

したいです。余談ですが、「救急隊からの聞き取りが、責められているようでこわい」という声を耳にすることがあります。決して責めているわけではないのですが、緊急度が高くなるとどうしても口調が荒くなりやすいので、私たちも改善しなければならない部分だと思っています。

医療・介護関係者との関係性で工夫していることはありますか

医師や看護師とは研修会などで一緒に雑談する機会もありますが、他の職種とはほとんど顔を合わせる機会がありません。ですので、消防署開催の研修会への参加を呼びかけることにとても苦労しています。また、介護関係者からの声もなかなか届くことがなく、資料作成や研修の内容を考える際に、介護関係者が真に必要としている情報とは何かを把握することにも苦労しています。救急隊は医師の目の代わりをしている思いで現場の様子を見ています。正確な情報を伝えることで、診察や判断の手助けになればと思っています。医師が救急隊を信用してくれているからこそ、信用を裏切らないように頑張らないといけないと感じています。救急隊は病院の救急外来に直接連絡をし、受け入れを確認しています。これは、病院関係者と救急隊の長年の信頼関係によってできたシステムだと思っています。他の関係者ともそのような関係を築いていなければなりません。現状ではまだまだ工夫が必要です。今回のセミナーで、ある受講

者から「施設内で救急要請をした後に振り返りをしているの、救急隊員にも入ってもらって一緒に振り返りをしたい」というお話がありました。そのような現場の声は私たちが介護関係者のニーズを把握するうえでとても参考になりますし、可能な限り、ご意見を実現したいと思っています。

医療・介護関係者とは今後どのような関係性を築いていきたいですか

医療・介護関係者と救急隊が何らかの形でつながりを持って、自由に意見交換できる場が増えるといいですね。三者が知ってほしいことや困りごとを共有できる関係が理想だと思います。そうなることが、スムーズに病院へ搬送することにつながるのではないのでしょうか。介護関係者から「救急車を呼ぶべきかどうかで迷うことがある」「こんなに状態が悪いのに、なぜ救急車に乗せてこなかったんだと医師に言われ、自分の判断に自信がなくなった」という声を聞いたことがあります。このような経験をした人は、たくさんいると思います。自分の思いに共感してもらうことも大事ですし、うまくいかなかったことを共有することで、他の方も自分が失敗しないように、活かすことができますよね。今後は、思ったことを気軽に話し合える機会が増え、医療・介護関係者と救急隊がつながりを持てるよう、まずは、きっかけ作りから、取り組んでいければと思います。

秋田市消防本部の講習会

<119番通報出前講座>
指令員が訓練用通報電話を使用して、119番通報に特化した講習会を行います

<救命講習>
救急隊員が心肺蘇生法など応急手当の講習会を行います

<高齢者福祉施設向け 集合型研修>
複数の施設職員と救急隊員が会場に集まり、多職種で意見交換をします

※コロナ禍で開催を見合わせているものもあります

連携センターからのお知らせ

令和3年度の在宅医療・介護に関する市民講演会「人生会議(ACP)をはじめよう」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止になりました。講演内容の動画を本センターホームページに公開予定です。

秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614
E-mail renkei-center@acma.or.jp

編集後記

急変時に慌てずに行動するために、何を聞かれるのか、自分はどう対応すればいいのか、日頃からイメージしておくことが大事だと感じました。多くの方にこの情報を活用していただけることを願っています。 高橋